

1. 議 事

(1)こども部令和2年度事業報告及び令和3年度事業について
委員に意見を求めました。

委員意見等
<p>・必要な事業を的確に実施されてきたことを確認しました。効果測定できる事業に関しては行い、次年度以降に反映されることを望みます。</p> <p>・こども食堂においては更に拠点・内容の拡充を望みます。</p> <p>・発達障がい児に対しての事業も更なる拡充を望みます(他市との差別化)。</p>
<p>・手当を配分する事業が多い中、家庭こども相談員が行う事業がきめ細かくお母さんの支援になっている。</p> <p>・情報はお母さん方に届いているのか。利用しやすくなっているのか。定着して欲しい。</p> <p>・こども食堂に関しては各小学校ごとにあるとうれしいですね。居場所としての設定ですので。</p>
<p>令和2年度はコロナ感染拡大の中様々な事業が実施しづらい状況になっていった。</p> <p>保育園の現場の立場からすると、地域の子育て支援が中止になる期間が長くなってしまった。虐待件数の新規相談数の増加は特に目に留まった。親子で気軽に保育園に遊びに来てママ同士がおしゃべりしたり子どもが安全に遊べる場の提供があったり、保育士に相談することもできる。そうしたことが、子育ての行き詰った状況の改善に繋がったのではと思った。</p> <p>コロナの感染の中だからこそ、こども食堂や子育て支援は大切な事業であることが改めて考えさせられた。</p> <p>大和市の待機児はかなり減っている報告は受けているが、コロナ禍で収入が減少している話はよく聞く。また、離婚も増えているので母子世帯の増加もありますます子育て支援の必要は増すと考えられる。</p>
<p>貴市は医療的ケア児への支援について、保育園に看護師の配置を始める等、法律が整備される前から先駆的に取り組まれていると聞いています。その取り組みについて記載してはいかがでしょうか。</p> <p>【事務局より】</p> <p>令和2年度から医療的ケア児等コーディネーターを配置し、医療的ケア等を必要とするお子さまとご家庭への支援体制整備に向けた取り組みを開始しました。医療、保健、福祉、教育などの各分野の支援者の連携を強化し、対象児童及びその家庭への支援力を高めるために、各分野の支援者を集めた関係者会議を定期開催し、情報共有や体制整備に向けた課題の検討などを行っています。</p> <p>こうした協議を重ねる中で、保育所等における医療的ケア児の受入れに係る体制の整備についても進めています。</p>
<p>コロナ禍が長期化する中で、養育に不安や難しさを抱えておられる家庭が増えているとの情報を耳にしますが、こうした状況下で様々な支援を細やかに進めておられることが分かりました。いろいろな自治体で今年度は0歳児の入園者が少なく、0歳児を養育されているご家庭への支援のニーズが高いようです。引き続き、細やかな支援をご検討いただければと思います。</p>
<p>すべての事業において、評価と検証がなされていると思います。</p> <p>ほいく課の公私連携型保育所等整備事業は、大和市独自の事業で、これからも子育て先進市として期待しております。「つどいの広場事業」も期待！！</p> <p>子育て支援の施策については、大和市は充実しており、誇りに思っております。コロナ禍後の親・子の心の対応は設備面以上に、スタッフ・保育士さん等の負担増になると思われれます。余力ができれば、保育士さんのスキルアップ・心のケアにも施策をお願いします。</p>
<p>コロナ禍にあって事業推進に加え、様々な配慮の下で子どもとその家庭に仕えてくださいましたことを感謝します。制度や事業が充実する中、その隙間に落ちていく家庭があることを耳にすることがありますが、情報を得やすい環境と共に、さらにきめ細やかな対応を進めていただければと思います。</p>
<p>コロナ禍で孤立しがちな子育て世代の助けになってくれたらと思う。小・中学生の中にはコロナ禍になってから、学校や「居場所」に行けない子も多いと聞いている。その子たちのためにも、いろいろ考えていきたいと思う。</p>
<p>仕事と育児の両立を安心してできる社会を目指し、引き続き大和市が待機児童ゼロを継続するためには、保育士不足が深刻な状況だが、民間保育所の増設は必要なことだと思います。</p> <p>保育の質の向上確保だけは、しっかり対応していただきたいと思います。</p>

妊娠前・妊娠中・産後・育児中…。様々な段階において相談窓口や支援が充実してきていて素晴らしいことだと感じました。段階によって相談内容等に変化はあると思いますが、それぞれの機関での連携・横のつながり・内容の共有(伝達)等はあるのでしょうか。

【事務局より】

妊娠を考えたときから妊娠・出産・子育て期まで切れ目のない支援を行うにあたり、関係機関との連携や横のつながりは欠かせないものとなっています。妊娠、出産期においては、特に産科医療機関と密に連携し、安心して出産できるよう支援しています。また、産後うつ等に関しても、産後健康診査事業などを通じて、産科医療機関と連携し、出産まもない時期からの支援に努めています。子育て期においては、相談内容に応じて市立病院や小児科医、ファミリーサポートセンターや子育て支援センター、保育所等と情報の共有を行うなど、連携に努めています。

子どもを家庭・地域・学校が連携して育てていくという視点で行政は様々な事業の展開をしていただきますよう願います。

待機児童数0が維持されているにもかかわらず、保育施設の増設が令和2年度で8件244定員、令和3年度で4件320定員と続いておりますが、出生数が1900台と減少傾向にある大和市で定員増の年齢別の目標値はあるのでしょうか。

【事務局より】

保育所等については、ハートプラン及び新子育て安心プランに基づいて整備しております。就学前児童数は減少傾向にあるものの、保育所等への申込率は増加しており、待機児童数ゼロを継続するために、地域別、年齢別に利用定員が申込数(見込み)を下回らない計画としております。

(2) 子育て支援施設「きらきらぼし」の指定管理者の評価について
委員に意見を求めました。

懸念していた施設の安全対策もハード(民間警備)とソフト(職員のスキルアップ)が連携し、改善されている印象を受けました。アンケートを適宜実施し、利用者目線から”何が必要なのか”を考え、実施していけば利用者も増えていくものと思います。行政のPR力も発揮できると良いですね。

・とても前向きに運営されており、独自の強さを活かし多岐にわたって充実している様子がよくわかります。
・コロナ禍でも利用者さんとの関係を切ることなくアイデアで乗り切れていることは素晴らしい。
・施設の適切な維持管理の為に安全講習会等の実施がされハード面での充実が感じられる。ソフト面に関して、職員間の意識づけについて、インプロワーク的な講座を取り入れてはいかがでしょうか。インプロワークでは即興的な対応が学べるので、一人ひとり違う個性を持った保護者の方と対応する際に、スタッフの方が自信が持てるようになり、心に余裕が持て、日常の保護者対応が充実するのではないかと予測されます。

子育てママ達のニーズに寄り添った子育て支援事業(きらきらぼし)で大いに評価します。
中央林間地区は子育て世帯が最近急増していますので駅近の託児室・送迎ステーションのニーズが増々高まると思います。
これからの課題はベビーカーの預り場所と送迎バスのステーションの場所(特に梅雨時の雨風が強い時)の工夫をお願いしたい。

【事務局より】

施設の裏口は非常口となっていますが、比較的広いたたきがあるため、希望者がいる場合は、暫定的な措置ではありますが、災害時の避難経路を十分確保した上で、台数を制限し、ベビーカーを預かっています。
現在のところ、制限台数を超えて預かる事例はありませんが、ベビーカーの預かり方法については、今後も指定管理者と検討してまいります。また、送迎バスのステーションの場所についても、あわせて検討してまいります。

多様な保育のニーズに対応した「きらきらぼし」の事業を、保護者のニーズに合わせて実施することは、私自身が保育の現場のものとして、大変な事と思い評価できる。
今年度、「こどもの城」の開園と合わせてさらに充実していくことを期待している。

利用者の方のアンケートの回答は概ね高評価で、スタッフの方たちの工夫やご努力が伝わってきました。一方で、コロナへの対応で手間暇が取られているということもあるのかもしれませんが、複数の方がスタッフの多忙さを指摘されていることや、「よく分からない」と回答されているアンケート項目が少なからずあることが気になりました。託児は毎回、利用する子どものメンバーも異なり、利用回数も子どもによって異なるため、固有の難しさがあるとは思いますが、利用者への情報発信や情報共有の方法については、検討の余地があるのかもしれない。

「きらきらぼし」のような子育て支援施設はこれからの子育てには(核家族等)ぜひ必要な施策と思います。「ななつぼし」「こどもの城」施設には期待します。

行政の評価通り、コロナ禍の中、可能な限りの感染対策も実施されていると思います。

その他、保護者アンケートの実施、工作キット送付等、色々な努力がなされていて、すばらしいと思います。

特に保護者の方への”5分間対応の実施”はぜひ充実させてほしいと思います。お互い(双方)に多忙とは思われますが、帰宅後の保護者の心の安定のためにも、細かな対応をぜひお願いしたいと思います。多忙と不安の子育て世代のストレスの軽減のためにも、保護者の悩み(グチ)を少しでも軽減できる場にしていただければと思います。

様々な園からの子どもたちに加えて、単発利用の子どもたちを抱えての安全な保育に尽力されていることは評価いたします。

コロナ禍で物理的距離を取らざるを得ない現場にあって、心理的距離を埋めるご努力は大変なことであったと思います。その一端として子育て相談に力を入れる取り組みなど評価いたします。

夏の外遊びを求められる保護者の気持ちは理解しますが、大人の生活圏と違って、地上から30～50cmのところで生活している子どもには真夏の外遊びは生命の危険にもつながります。そのような啓蒙活動やお休みの日の朝早くに子どもと散歩をするなどの過ごし方についての提案などしていただけるとよいのではと考えます。

子どもたちは、地域の中のたくさんの人たちと関わることで、成長していくと思っています。コロナ禍により、地域のいろいろなイベントが出来なくなっている今、このような支援施設なら出来ることがたくさんあると思うので、積極的な地域との交流・連携をはかるようなことを実現してください。

本来の、小さな単位での地域交流も再開できることを願いつつ、子育て支援施設での事業展開に期待しています。

資料にも書いてあったように、新型コロナウイルスの影響で、子育てイベントがなかったり、情報交換できる場が限られているので、今後も子育て中の家庭が気軽に相談できる場であってほしいと思いました。

アンケート結果が満足度の高い結果となっている一方、任意のアンケートでの利用者の要望をどこまで対応するか、その線引きをしっかりと打ち出すことも大切かと思えます。

引き続き、安心して預けられる施設を目指していただきたいと思います。

きらきらぼしの中の様子が分からない・施設内を見たことがないという利用者の意見が気になりました。安心して利用するため、市の取り組みを理解しよさを知ってもらうためにも透明化は大切なことだと思います。また、口コミの影響力は大きいので利用者増にもつながると思います。

- ・非常用通路に預かったベビーカーを置くことを心配します。早急に対応してください。
- ・託児室の申し込み方法や保育士の定員など改善できるところから取り組んでください。

【事務局より】

施設の裏口は非常口となっていますが、比較的広いたたきがあるため、希望者がいる場合は、暫定的な措置ではありますが、災害時の避難経路を十分確保した上で、台数を制限し、ベビーカーを預かっています。

現在のところ、制限を台数超えて預かる事例はありませんが、ベビーカーの預かり方法については、今後も指定管理者と検討してまいります。

指定管理者としては良。

託児利用者の新規登録者に大和市市外の方が2割ほど認められますが、利用料金は市内と変わらず、公平な市の支援の対象と考えてよいか。

【事務局より】

指定管理者の利用料金は、市が条例で定める金額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定めることとしており、子育て支援施設においても指定管理者が条例と同額の設定としているところです。

市が条例で定める利用料金は、市内類似施設と先行して一時預かり事業を行っている屋内子ども広場保育室において、市内外で利用料金に差を設けていないこと等を考慮し、市内外で同額としています。

(3)その他

”生まれてきて良かった”と子どもが感じられる社会を模索しながら、地域活動に微力ながら努力しようと思っております。